

松本映画祭 地元3館で

松本深志高校(松本市蟻ヶ崎3)の創立150周年を記念した「松本映画祭」が9～10月、松本地域の映画館や劇場など3会場で開かれる。創立130周年の平成18(2006)年に実施した第1回

に続く開催で、同校同窓会が主催。深志高出身の映画監督やプロデューサーが手掛けた名作の他、松本ロケ映画や松本ゆかりのドキュメンタリーなど14作品を銀幕に映し出す。(有賀文香)

深志高創立150周年記念

9～10月に14作品上映

同窓生に限らず市民1年)、深志高の実話に開かれた記念事業とに基づく『さよなら、する目的で企画。関係クロ』(2003年)者が24日に市内で会見し、情報を公開した。上映するのは、いずれも卒業生の熊井啓監督が手掛けた『黒部の太陽』(1968年)や降旗康男監督の『鉄道員』(1999年)、同窓生がプロデューサーを務めた『日本の黒い夏』(200

150周年の文化事業の一つとして3年前に準備に着手し、同窓生が映画委員会を立ち上げた。各映画館に交渉し、14作品全てを土日曜・祝日の上映として調整。チケット価格は前売り1100円、当日1200円に設定し、広く足を運んでもらえる環境を整えた。前回映画祭は市街地のエンギザなどが会場になったが、その後、

街の映画館は姿を消した。映画祭委員長の雨宮有三郎・元電通映画プロデューサー(71)

は映画に明け暮れた高校時代を振り返り「映画はやっぱり大きなスクリーンで見るもの。ぜひ鑑賞してもらいたい」と話している。上映やチケットの詳細は

映画祭専用ページ

映画祭をPRする雨宮さん
(中)ら深志高同窓生



映画祭専用ページ
(QRコード)